

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	安全・快適・やすらぎのある理想郷を求めた法人の理念の基に、「輪・和・話・我」の4つの「わ」の家、「みんな輪になり穏やかに話し声の聞こえる我が家」を理念としている。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	利用者の「わ」、職員との「わ」、家族との「わ」、地域との「わ」、それぞれの「わ」が良い関係であることで、安全と快適とやすらぎが生まれる事を職員皆、認識しており意識しながら生活している。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	家族へは生活の状況をお知らせするとともに、地域の関わりについてもお知らせしている。地域の方々にも地域活動に参加することで理解を得られてきている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	利用者の方々のこれまでの生活の一部の、日常的な散歩や買物などに一緒に係らせていただくことによって、職員も隣近所の方々に声を掛けていただき、挨拶も出来ている。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地区敬老会、公民館行事、地域のお祭りなどに出かけて地域の方々と交流している。行事の実行委員活動に参加することが事業所を理解していただく機会になった。新たな地域活動の情報をいただく機会になっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の皆様に事業を理解していただくことを目標として地域の活動にも参加していて、地域の社会資源にもなっていると思われる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価はグループホームという事業を多角的に捉えることの出来る優れたスケールであると感じて、意義を理解している。又、内容を確認し、必要な部分は見直しを行っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催している。利用者の方々の生活状況の報告の他に、委員の方々にもいろいろな角度から意見をいただきたいとおもい、議題や資料は各月いろいろな物を準備するように努めている。意見はサービスに生かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	諸手続きなど出きるだけ足を運び直接会う機会を多くしている。運営推進会議の委員の方とは別の方に入所判定会議の委員をお願いして状況の説明や相談する機会が得られている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	以前研修会に参加し伝達研修なども行ったが最近は行っていない。現在は家族の支援を受けられているため、制度を利用している方はいないが必要な場合に備え学習したい。	○	社会福祉協議会の協力をいただいて、学習会を行いたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する資料を配布や回覧をして、意識を促している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約する以前の申し込みの段階から、現在の生活や入所後の生活などについて話を聞いて、相談には対応している。契約に関しては十分な理解、納得を得られている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常から傾聴に心掛けている。職員や家族に不満や苦情を伝えたときは、連絡ノートにて職員全員に周知させている。相談機関については説明しホーム内と各居室にその連絡先を表示している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、担当者が手紙で状況や連絡事項をお知らせしている。毎月家族が来所されるので、その際にも状況や連絡事項を報告、確認していただいている。そのほか必要に応じ連絡している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族が来所された時や連絡が取れた時にご意見を伺っている。相談機関をホーム内に掲示したりお便りでお知らせしている。家族アンケートも行っている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎日ミーティングを行い、定期には職員会議を行い意見、提案の機会を設けている。日々の会話でも意見提案に耳を傾けてくれる。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>日課や行事に合わせて、利用者の生活に支障のないように勤務を調整している。緊急時に対応できるように連絡先の確認が取れている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>移動は法人全体の事であるが、移動がある場合でも職員の資質や経験等を十分考慮して行われ、利用者へのダメージも少なかったと思われる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>資格や経験年数を考慮して、内外の研修に参加させている。法人内の研修には毎回ほぼ全員が参加している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同法人のグループホームとの交流や他法人とのスポーツ交流会が行われている。地域の事業者研修会などにも出席して情報交換などが行なわれている。GH協会の交換研修や開設者研修など、学習する機会が多い。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>法人や事業所で懇親会などを行なっている。職員の話はいつでも聞こうとする姿勢で声掛けもされている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の目標の管理確認を行なっている。その時々状況を把握し、指導や助言を行なっている。必要な情報や連絡事項は全職員一人ひとりに通知される場合もあり、職員の業務に取り組む意識に働きかけている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に本人と面談している。利用についてはなかなか理解していただけないが、聞き取りを行い受け止める努力をしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初回の相談のほか、入所にいたるまでに定期的に状況を確認して、ニーズを確認している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況を確認し、利用が考えられる範囲の他のサービスの内容も説明している。利用方法や手続きの方法なども説明している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談初回から本人に合うことはほとんどないが、事業の内容を家族に理解いただき、本人に説明していただいている。利用前には面談をしている。家族以外の関係者からも情報を収集したり、利用前の施設見学も促している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	何か行う時は本人に尋ね、その意向を尊重している。聞いて話して心に向けて一緒に生活してる。出来ない部分は手伝うが、日常生活の中で教えていただくことは多い。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の生活を理解していただけるように、状況はできるだけお知らせしている。家族との会話も大切にして、気持ちを確認しながら支援している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの関係を理解すると共に、場合によっては状況を改善できるように働きかけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	声を掛けられる方々には来所を促したり、馴染みの場所には出きるだけ足を運ぶようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用同士の関係を考慮しテーブル席を変更したり、耳が遠くて会話が成り立たないときは職員が間に入り会話する。活動の場や居場所を作り、係わりを支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用が終了する場合であっても、利用者と家族がその後の生活に困らないように相談にのり支援している。病院や施設に移られた方で、できる方には面会している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から声掛けをして、何を希望されているのか、会話からくみ取るようにしている。職員間でも生活に希望や意向が反映されるように話し合いを重ねている。センター方式でアセスメントを行なっている。本人本位にサービスが提供されるように学習に努めている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族、以前に利用されていた事業所などからの情報を収集してセンター方式に書き込み参考にしている。これまでの生活スタイルや習慣などを出きるだけ維持していただけるように努めている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	健康状態や活動の様子など、生活の現状は毎日記録されている。状況は日誌で確認したり、朝夕の申し送りや連絡ノートにて周知され情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	会議に全職員が参加して情報を共有して意見を交換し計画を作成している。ご家族にも説明し意見をいただいている。必要な場合は同法人の看護師や担当ケアマネやサービス利用事業所にも意見を求めている。		
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的見直しの他にも状況の変化に合わせて、必要な場合は対応を変えている。対応が変わったときにはミーティングや連絡ノートにて周知されている。家族にも電話、手紙、メールなどで知らせ意見も伺っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子は毎日記録されている。その内容を確認し情報を共有している。ミーティングや連絡ノートを活用して、対応を検討して統一している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急時の受診援助を行っている。利用前の方や退所される方にはその後の援助として、サービス事業所の情報を提供したり、要望があれば手続きなどの説明や援助も行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	認知症対応型の事業所であるということを理解していただき必要な情報は把握していただいている。意見交換が出来る関係にある。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	求められた場合は他のサービスの情報を収集して情報を提供している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	定期的に行われる入所判定会議の委員を支援センター及び社会福祉協議会の方をお願いしている。相談や助言をいただく機会がある。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所することによってかかりつけ医の変更は行っていない。利用者の心身の状況により必要な場合は本人家族の意向により変更される場合もある。基本的に通院は家族をお願いしているが、緊急時には同意を得て協力医を受診する。職員もかかりつけ医との関係作りに勤めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声の大きさや、会話の場所や方法などに配慮している。出来る事、出来ないことを理解し、出来ないことにより本人が傷つかないように配慮している。他者との関係作りを支援している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	画一的な表現ではなく、その方の理解できる言葉や表現で接している。介護者の考えを押し付けないように、利用者の希望を聞くようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々働きかけることも、まずは本人の意向を確認している。食事、入浴、外出など本人の希望を重視している。利用者同士、楽しく過ごす日もあれば口げんかをして雰囲気が悪いときもある。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容美容は近所の馴染みの店に言っている。衣服は殆ど自宅にいたときの物を着用していただいている。本人の好みを考えて主に家族が購入してくれる。面会時に散髪してくれる家族もある。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立担当者が利用者から話を聞いて希望を取り入れている。出きるだけ季節の物を取り入れている。好みにより代替食をお出ししている。ハウスで野菜を作り、収穫した野菜をいただいている。準備や片付けも、その日その日で出来る方に行っていただく。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在飲酒喫煙を希望される方はいない。飲み物やおやつは種類をそろえている。希望される方にはお部屋にも置いていただいている。本人の好みの物を購入するために買物に出かけることもある。	○ 献立を全部決めずに店で食材を見て選んでいただく機会を多く設けたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄の状態に合わせて、時間や用品を考えて介助や声かけを行っている。リズムを確認し失敗を減らし、気持ちよく生活できるように支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その日の予定や体調をみて入浴を進めている。進められても希望されない場合は気分の良い日を見て誘っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個室のためいつでも休息できる。日中ソファで眠ってしまう方もいるが自由にしている。夜間も巡回し安眠できるように見守っている。眠ることで本人もしくは他利用者にとって何か不都合がない限り、自由に過ごしていただいている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中で利用者のできる事、行いたいこと等が行われるように声掛け支援している。畑仕事・掃除・台所仕事・洗濯たたみなどを行っていただいている。外食やバスハイクなど外に出る楽しみも作っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で買物が出来る方や、手もとに置くことを希望される方にはお持ちいただいている。管理が難しい方には金庫に保管させていただいている。希望があれば一緒に買物にも出かける。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者のその日の気分に出きるだけ合わせて、散歩・買物・ドライブなどに出かけている。散歩や外気浴は日頃から促している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	自宅や地域に出かけられるように声掛け支援している。外食や季節ごとの外出もしている。家族にも一緒に外出できるように働きかけている。	○	自宅訪問したり、行事には家族にも参加していただけるように働きかけていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用を希望される方にはいつでも使用していただけるように支援している。手紙を出したいと希望される方はいないが年賀状を出す方はいる。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	馴染みの方々に、これまでの関係を断ち切らずに入所前と変わらない付き合いが出来るように訪問を促している。面会時は好きな場所で過ごしていただいている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては理解している。利用者本位の生活なので身体拘束になる行為は全くない。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵がないため、心配する利用者には夜間職員が見回りをしていることを説明している。夜間以外は玄関にも鍵は掛けない。外出者に対してはセンサー音でわかるようにして、見守りと同行に努め、本人本位に対応している。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に意識し利用者の所在を確認している。夜間もこまめに居室を見回り、事故防止に努めている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態により事故の危険性のある物は場所を決めて保管している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者個々のリスクについてミーティングや会議で話し合われている。ヒヤリハットを記録し予防策を検討している。救急救命講習や避難訓練を行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命講習を受講している。マニュアルを作成して掲示や配布を行って対応に備えている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回以上避難訓練を行なっている。災害に備え道具を準備している。地域の災害援助協会があり協力をいただいている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の生活の状態はこまめにお知らせしている。その状況によってリスクが考えられる場合は報告している。本人家族の意向と生活の状況に合わせて最善の方法を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行っている。常に表情や活動の様子などを見ていて変化のあった時は勤務している職員で情報を共有している。ミーティングや生活記録を確認し情報を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬については確認を重ねている。処方内容に変更がない場合であっても、処方の都度内容を確認している。薬は個別に管理して、所定の場所で保管している。飲み込みや袋の処分も確認している。健康状態の確認を常に行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便確認を毎日行っている。薬にはあまり頼らず、本人に合った運動や、献立に海草や食物繊維を多く含む食材を取り入れるようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて毎食後見守りや介助や確認を行っている。就寝時には義歯洗浄剤を使用している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	どのくらい食べれているのか毎食確認されている。咀嚼の状況により形態を変えている。5大栄養素を常に意識しバランスの良い献立になるように努めている。毎月抜き打ちで栄養計算を行っている。水分は時間や種類を決めずに状態に合わせてこまめに行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種を受けている。感染症の発症が予測される場合は情報を収集し、事前に学習している。手洗い・うがいを行い予防に努めている。参考書やマニュアルが準備されている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	家庭的な食事を安全に楽しむことができるように、食中毒予防策があり行実行されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	違和感のある特別な装飾は控えるようにしている。建物はむらさき苑の敷地内に建てられているため近隣の方々には馴染みがある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節行事の写真を掲示したり、食堂や廊下の掲示板には、利用者と職員で毎月作品を作り、季節を感じていただけるような飾り付けをしている。秋口には天窓に日よけのカーテンを取り付けている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間が分けて設けられているため、それぞれ利用者の関係や、そのときの状況に合わせて使い分けられている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や位牌や馴染みの装飾品や本人の好むものを持ち込んでいただいている。自宅の環境に近づくように方向や角度にも配慮して、その人らしくレイアウトしている。自室には家族と一緒に撮った写真を飾っている。自室で手紙を読んだりラジオを聴いて過ごす方もある。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	機械的に調整するのではなく利用者の体感も確認しながら調節している。換気は急激な温度変化に注意して行っている。温湿度計を各所に取り付けて確認している。着衣の調整をこまめに支援している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部全体に段差がなく、廊下・トイレ・浴室には手すりがあり安全設計である。身体機能の低下防止のため過剰に道具や器具を取り付けないようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	表札や各場所に目印を付けたりして混乱を防いでいる。利用者のできる事で出来ないことを把握し、出来ない部分に声掛け・見守り・介助を行っている。出来る部分を少しでも表現できるように支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇やハウス、中庭のプランターに野菜を植え利用者に収穫していただいている。敷地内にあるむらさき苑のハウスや庭にはたくさんの植物があり楽しむことができる。玄関のベンチや渡り廊下で日光浴が出来る。玄関先で休んでいるといろいろな方に会える。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

昨年出来ていたことが、今年は出来なくなってきている利用者もいるが、リスクを考えながらも利用者本位の生活を考えていきたい。  
4つの「わ」（輪・和・話・我）らしく、家庭的で笑いのある生活を過ごしていきたい。